

# ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Vol.41 Autumn 2018

秋になると、キィーキ、  
キィ、キィと鳴き、これをモズの高鳴  
きと呼びます。高鳴きが聞こえると、  
秋本番です。



モズ

## 今号のトピックス

- ・ 特集 海上の森はいま 「コケ写真展」を開催しました
- ・ 森のなかま フクロウ
- ・ この人 苔むす会代表 のだ ふみ さん
- ・ 海上の森のここに注目! ドングリの秋

## 秋のミニセミナー 毒きのこの話

毎月第4土曜日に開催している海上の森ミニセミナーはもうすぐ第26回を迎えます。10月27日(土)開催予定のテーマはズバリ「毒きのこ」! 話題提供者は、5月のミニセミナーでは「地下生菌」についてお話しいただいた三河きのこの会の木村修司先生。「食毒の見分け方は全て迷信」「調理法では毒きのこ」など、きのここと付き合うために必聴なお話が盛り沢山です。

秋はきのこのシーズンです。しかし野生きのこの取り扱い、非常に難しいものです。毒きのこの知識を学べる本セミナー、皆さまのご参加をお待ちしております。



## 特集 海上の森はいま

### 企画展示「コケ写真展 拡大鏡を通した森の世界」を開催しました

あいち海上の森センター1階展示室にて、8月10日～31日に企画展示「コケ写真展 拡大鏡を通した森の世界」を開催しました。コケの写真は苔むす会さんにご提供いただきました。

コケ植物は遠目に見ると変哲のない緑のマットのようですが、拡大すると一つの立派な森のように雄大な姿を見せます。壮大さに圧倒されがちな自然に対して、ミクロな森の見方をするとまた違った魅力が見つかることを、今回の写真展で紹介できたかと思えます。期間中には「海上の森でコケサマー！」と題してコケに関する講話やコケテラリウム作製講座が開かれ、賑わいました。

企画展示では、様々なテーマを設けて、よりいっそう自然に親しみを持てるような展示を目指しています。センターが掲げる理念である「森林や里山に関する学習と交流の拠点」に沿い、その役割を果たせるように展示室もいっそう充実させていきたいと思っておりますので、今後とも是非ご注目ください。



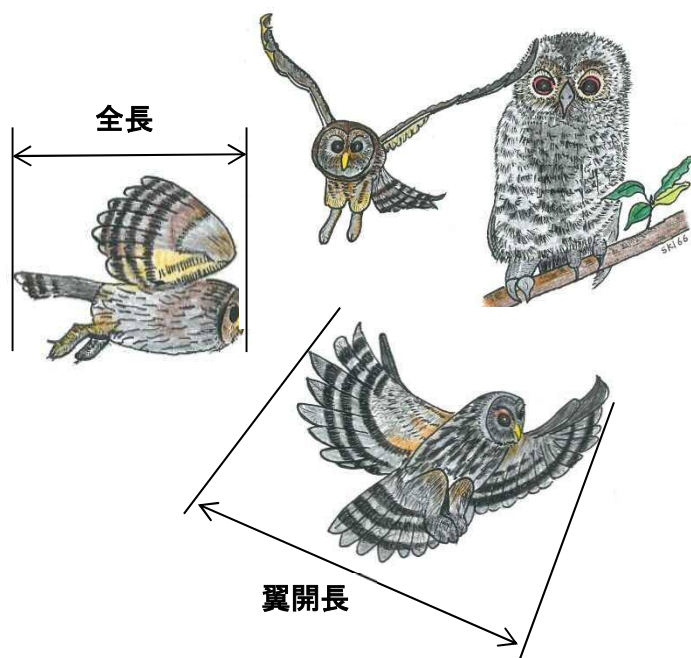
▲写真展の様子



◀ 講座にて作製されたコケテラリウム（ヒノキゴケ）

## 森のなかま フクロウ

フクロウはフクロウ目フクロウ科に属し、夜に活動する猛禽です。全長約 50 cm、広げた翼の長さ（翼開長）は 1 m にもなります。鋭いクチバシと爪を持ち、顔は平たくて目は並んでおり、両眼視できる範囲は他の野鳥に比べて広いと言われます。羽毛は柔らかく羽音がしないという特性を備えた天性の狩人と言えます。その獲物は主にネズミ類です。



H24年6月3日撮影 提供写真

海上の森には留鳥として生息し、その営巣が初めて観察されたのは平成 28 年の春でした。そして、今年（平成 30 年）の春にも、再び営巣が観察され、2羽のヒナが巣立ちました。

（参考図書 ①フィールドガイド日本の野鳥、②科学のアルバム フクロウ 他）

## この人

## 森を守る小さな妖精たち、苔に惹かれて

### 苔むす会 代表 のだ ふみ さん

コケと聞いて、何を想像するでしょう。多くの人は、苔寺や苔むす緑の絨毯、または日陰のジメジメした厄介者という辺りでしょうか。

ところが最近では、コケブームとのことで、メディアに取り上げられコケ観察や育てる人も増えました。日本蘚苔類学会では、『コケの森』として、奥入瀬溪流や屋久島などを認定し、観光地として有名な所も少なくありません。ですが、コケは遠くに行かずとも、身近に沢山生育しています。ここ『海上の森』は、約530haの森ですが、現在150種を確認し、観察には貴重な里山です。

そもそも、「コケ植物とは何か？」ですが、コケは陸上植物の中でも原始的な植物と言われ、土から水分や養分を吸い上げる『根』がありません。ではどのように水を得ているかという点、その小さな体全体で雨や朝霧から吸収します。また、水分を保つ機能も無いため、乾燥時は、生命維持を

休止し、枯れることはあまりありません。そのため、環境に合わせて生きていけるタフな植物なのです。

その機能を存分に生かし、他の植物が生育できない過酷な場所へ最初に着生します。表面を被い水を蓄え他の植物の母床となり種を育み、礎となって森を再生していきます。

小さなからだに秘められたスケールの壮大な営みと悠久の時の流れ。知るほどに森を守る小さな妖精たちに魅了されてしまいます。また、コケには何か重大な任務があるはずだ!! と漠然と黙っていて、どのコケを見てもワクワクする今日この頃です。



#### 《プロフィール》 のだ ふみ

苔むす会 代表 日本蘚苔類学会 会員  
海上の森の会 会員 岡山コケの会 会員

コケ植物の不思議な力に魅せられ、自身の勉強のため、海上の森のコケを観察中。『苔むす会』の活動にて、コケ観察会や、海上の森センターにてコケのミニセミナーでの話題提供など。



## センター職員随想リレー かたりべのひと言

万博前の海上の森を知る身としては、現在の森の姿を見て、よくもまあ～時代の流れに翻弄されながらも残ったものだと思う。多くの人に関わって…いろいろとあって…その結果残ること？（護っていくこと？）になった森。天気の良い休日は日に千人を超える人が訪れる森、昔はここに来る人はほんとに少なかったんですけどねえ～。

今ではいろんな考え（嗜好）の人が、様々な目的で思い思いに森を訪れます。山好き、植物好き、虫好き、湿地好き、畑好き、動物好き、きっと皆さん自然大好き！ 海上の森大好き！！

森では様々な生きものたちが、我々のことなどに関係なく生きている。森を訪れる人はそんな自然に対し、そしてお互いにも敬意を払っていけるといいですね。

この森の生きものは万博と関係なく、ずっと昔からこの森で森とともに生きている。

我々には海上の森に対して大切な約束を果たす責任がある。今までも、そしてこれからも。

(庭猿)

## 海上の森のここに注目! ～ドングリの秋～

海上の森に実りの秋が来ました。涼しくなり、ぐっと散策しやすくなったこの季節、森のなかを歩くときにはぜひ足元のドングリにもご注目ください。ドングリとは、ブナ科の木の実のことで、固い皮と殻斗(かかくと) (ドングリ帽子)が特徴的です。果実なので食べることができ、縄文時代には私たち人間の主食であったことが知られています。また、こどもの遊び道具や染料としても役立ち、私たち人間の文化において重要な役割を果たしてきました。



▲シラカシ



▲ドングリの根

**コナラ**

ウロコ状で平らな模様の殻斗が特徴で、小型。

**アベマキ**

イガイガな殻斗が特徴で、クヌギによく似ています。

**フモトミズナラ**

ぼこぼこしたウロコ状の殻斗が特徴。その分布のナゾは未解明です。



海上の森では、約 10 種類のドングリを見つけることができます。多く見かけることができるのはコナラとアベマキのドングリですが、海上の森を訪れた際にぜひ探してほしいのは、分布が非常に限定されこの辺りでしか見られないフモトミズナラのドングリ。フモトミズナラは、ずんぐりとした本体とごつごつとした殻斗が特徴的です。もちろん他のドングリたちもどれも殻斗が個性的で覚えやすく、知れば森を歩くのがもっと楽しくなるはず! 10~11 月には展示室でより詳しいドングリの展示を行いますので、ご期待ください。

(参考図書 ①どんぐりの図鑑、②どんぐりノート 他)

## 平成30年度 11月開催予定 海上の森プログラム

**森の楽校・森のようちえん「ドキドキころころ! 秋の森へおいでよ」**

秋の海上の森で、自然の楽しさやおもしろさを子供と大人が体験できるプログラム。インタープリターと一緒に、遊びや工作を通して自然とふれあいましょう!

- 日時 平成30年11月10日(土) 10:00~15:00
- 場所 遊歩施設、幼児森林体験フィールド
- 定員 森の楽校(小学生と保護者を対象): 5家族  
森のようちえん(4歳以上園児と保護者を対象): 15家族
- 参加費 無料(傷害保険料50円/人)



お申し込み方法など詳細につきましては、あいち海上の森センターおよび関連施設にて配布される資料またはセンターホームページ(<http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>)をご確認ください。※10月27日(土) 締切!

**編集後記**

今年の夏は早い頃から猛暑日が続いたこともあって、涼やかな秋が待ち遠しくありました。移り変わる季節を楽しみ、思いを馳せることができるのはなによりの幸せです。

編集・発行 あいち海上の森センター(ムーアカデミー)

発行日 平成30年9月28日

〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: [kaisho@pref.aichi.lg.jp](mailto:kaisho@pref.aichi.lg.jp)

URL: <http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>

